

平成 2 4 年千葉市教育委員会会議
第 1 0 回定例会会議録

千葉市教育委員会

平成24年千葉市教育委員会会議第10回定例会会議録

日時 平成24年10月24日（水）

午後4時30分開会

午後6時00分閉会

場所 教 育 委 員 会 室

出席委員	委 委 委 委 委 教	員 育	長 員 員 員 員 長	内山 英夫 和田 麻理 篠原ともえ 中野 義澄 明石 要一 志村 修
------	----------------------------	------------------------	----------------------------	---

出席職員	教 教 学 生 総 企 学 学 学 教	育 育 校 涯 務 画 校 校 事 職	次 総 教 学 学 総 企 校 校 事 員	長 務 育 部 育 習 課 課 財 設 課 課 課	長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長	小池よね子 竹川 幸夫 磯野 和美 原 誠司 初芝 勤 高須 右一 山田 輝夫 小野 正嗣 佐藤 宏喜 宇田 英弘	指 保 教 養 生 中 科 総 学 生	導 健 育 セ 護 涯 央 学 学 務 事 涯	課 体 育 ン 教 学 学 図 推 課 課 課 課 振	長 長 所 所 長 長 長 長 長 長 主 主 主	大久保良孝 井谷 芳明 真田 清貴 沼倉 徹 松戸 利一 橘 高俊 遠藤 悟 久我 千晶 行木 浩 塚越 達雄
------	--	--	---	---	---	--	--	--	--	---	--

書 記	総 総 総	務 務 務	課 課 課	長 委 総	補 員 務	佐 会 係	南 土 渡	久志 慶典 実	総 総	務 務	課 課	主 主	査 任	補 主	諏訪 藤井	瑞穂 拓也
--------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	---------------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	----------	----------

- 1 開会
内山委員長より開会を宣言
- 2 会議の成立
全委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名
内山委員長より篠原委員を指名
- 4 会期の決定
平成24年10月24日（1日間）ということで全委員異議なく決定
- 5 議事日程の決定
議事日程を全委員異議なく決定

6 議事の概要

(1) 報告事項

報告事項(1) 平成24年第3回千葉市議会定例会について

総務課長より報告があった。

報告事項(2) 千葉市学校適正配置実施方針の一部改正について

企画課長より報告があった。

報告事項(3) 平成24年度統合小学校に関するアンケート調査について

企画課長より報告があった。

報告事項(4) 平成25年度公立学校教員採用候補者選考（二次）受験状況について

教職員課長より報告があった。

報告事項(5) 第55回千葉市小・中・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会第1部について

指導課長より報告があった。

報告事項(6) 平成24年度第1回長柄ジョイントキャンプについて

教育センター所長より報告があった。

報告事項(7) 平成24年度長柄ハッピーキャンプについて

養護教育センター所長より報告があった。

報告事項(8) 「千葉市科学フェスタ2012」メインイベント開催及び千葉市科学館利用者200万人達成について

生涯学習振興課科学教育推進担当課長より報告があった。

(2) 議決事項

議案第38号 平成24年度末及び平成25年度公立学校職員人事異動方針について

教職員課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。

(3) 発言の要旨

報告事項(1) 平成24年第3回千葉市議会定例会について

内山委員長 総務課長、報告をお願いします。

総務課長 「平成24年第3回千葉市議会定例会について」、報告します。

第3回千葉市議会定例会ですが、9月7日から10月3日までの会期で、「教育未来委員会」、「代表質疑」、「決算審査特別委員会」、「一般質問」等が行われました。

次に、教育委員会に関する提出議案等の審議状況について報告します。

まず、市長から提案がありました「千葉市教育委員会委員の任命について」ですが、9月20日の本会議において、内山委員、明石委員の任命について同意されました。

次に、平成23年度の決算の認定についてですが、教育委員会に関わる「一般会計歳入歳出決算」、「公共用地取得事業特別会計歳入歳出決算」、「学校給食センター事業特別会計歳入歳出決算」については、決算審査特別委員会の審査を経て、10月3日の本会議で認定されました。

次に、9月18日から20日まで行われた「代表質疑」ですが、7会派が教育委員会に対して質疑を実施しました。主な質疑の内容はお手元の資料のとおりです。

また、9月26日から10月2日に行われた「一般質問」ですが、24議員が質問を実施し、うち12議員から教育委員会に関する質問がありました。主な質問の内容はお手元の資料のとおりです。

平成24年第3回千葉市議会定例会に関わる報告については以上ですが、何かご不明の点、説明を要する点などがありましたら、事務局の方までお問い合わせください。

報告事項(2) 千葉市学校適正配置実施方針の一部改正について

内山委員長 企画課長、報告をお願いします。

企画課長 「千葉市学校適正配置実施方針の一部改正について」、報告します。

学校適正配置実施方針は、平成19年10月に策定していますが、毎年度、最新の児童生徒数の将来推計値をもとに、データ部

分を改訂しています。

具体的には、昨年度は29年度までの将来推計値でしたが、今回の改訂では30年度までの将来推計値に基づく記載となっています。

それでは、改正した内容について説明します。

「千葉市における学校適正配置対象校」ということで、30年度における学校適正配置対象校の数ですが、11学級以下の小規模の小学校は32校となっています。

次に、小規模中学校は28校、25学級以上の大規模小学校は11校、大規模中学校は4校となります。

続いて、平成30年度における小規模校の立地状況をパターン別に示していますが、Aパターンは、複数の小規模校が集中する地域、Bパターンは、小規模校が分散している地域、Cパターンは、小規模校が点在して存在する地域となっています。

次に、適正配置に向けたスケジュールですが、平成25年度と平成26年度の内容を追加して記載をしています。

続いて、平成30年度におけるAパターン、Bパターン、Cパターンの学校名を行政区別に示しており、その下の表は、大規模校の学校名を区別に示しています。

次に、統合校のアンケート調査結果ですが、以前は花島小学校を対象としたものを掲載していましたが、今回は高洲小、真砂東小、真砂西小、真砂中を対象としたアンケート調査結果を掲載しています。

明 石 委 員 基本的にはよくできていると思います。

教員等の配置というのは、この適正配置で教員を増やすということだと思いますが、教員の加配及びスクールカウンセラーの配置を行うというだけでは、地域住民はわかりにくいと思います。

例えば、私の考えでは、小学校は低学年、中学年、高学年に分けて、低学年を担当する教員を1名設けるというようにすれば、非常に低学年はまとまると思うので、今後、そのような手厚い保障をしていくということを言わないと、保護者や住民の方は、なかなか納得しないと思います。総論では納得しても、各論ではかなり抵抗があると思います。

だから、単なる加配ではなく、低、中、高学年の面倒を見る先生がいると若い先生はすごく助かると思います。

また、統廃合の際、空いた学校をどう使うのかということにつ

いて、地域の方は非常に興味を持っていると思いますので、学校支援地域本部を作ったり、放課後子どもルームの総合施設を作ったりという、新たなコミュニティを作るという発想がないと、みんな分散して、昔の学校の面影を持ってしまうのではないかと思います。

文部科学省は、コミュニティスクールということを言っているので、この適正配置を契機に、千葉市版のコミュニティスクール構想を検討するといいいのではないかと思います。

続いて質問ですが、子どものアンケートは、非常に嬉しいというか、いいアンケートだと思いますが、どうして保護者からはとらなかったのでしょうか。

子どもたちは結構、「いいな」「友達が増えて楽しかった」と思っていますが、保護者はどう思っているのかというのも重要だと思います。

企画課長 保護者に対するアンケート調査は行っておりませんが、教職員に対するヒアリングとアンケート調査は行っています。

明石委員 保護者はやるつもりはないのでしょうか。

反対が起こる場合は保護者の方からだと思うので、保護者のアンケートもやるべきではないかと思います。

内山委員長 一度、検討してみてください。

企画課長 では、今後、検討させていただきます。

内山委員長 先ほど、A、B、Cパターンと説明がありましたが、やはり一番難しいのはCパターンなののでしょうか。

企画課長 Cパターンは広範な地域をエリアとしているので、もし中学校同士、小学校同士が統合となった場合には、スクールバス等の通学の手段や学区の検討が必要になりますし、また、小・中学校での統合の検討も必要になるので、エリアが広がることによってさまざまな問題が発生すると思われます。

このことから、現在、一番小規模校が集中しているAパターンの地域を中心に、統合を進めていきたいと思っています。

内山委員長 いずれのパターンもいろいろと困難な問題があると思いますが、明石委員の発言にもあったように、地域の方々と十分な議論を繰り返して、いい方向に持っていきたいと思っています。

大変な努力を要すると思いますが、よろしくお願いします。

報告事項(3) 平成24年度統合小学校に関するアンケート調査について

内山委員長 企画課長、報告をお願いします。

企画課長 「平成24年度統合小学校に関するアンケート調査について」、報告します。

本年4月、高浜第二小学校と高浜第三小学校が統合し、新設校として高浜海浜小学校が開校しました。

本調査は、学校統合後の児童生徒の意識を調査することにより、今後の学校経営及び学校適正配置を推進するための参考資料とすることなどを目的として実施したものです。

本調査の実施方法ですが、統合小学校である高浜海浜小学校の2年生から6年生までの全児童を対象に、平成18年度に花島小学校で実施した調査とほぼ同様の質問紙による選択記述式の調査とし、実施しました。

また、調査方法ですが、担任の教員が1問ごとに質問を読み上げ、それに児童が回答する形としています。

調査は、平成24年7月17日から20日までの間に実施し、回答者数は245人、回答率は98.8%となっています。

アンケートは全9問で、質問の(6)と(7)については、小学校5年生、6年生のみを対象に行いました。

それでは調査結果ですが、まず1問目の「新しい小学校になってからどんなことに努力しましたか」について、最も多かった回答は「友達と仲良くする」81%、次に「学級の仕事をしっかりやる」が49%、「運動会などの行事を成功させる」が同様に49%となっています。

次に、2問目の「教室のようすは去年とくらべてどう変化しましたか」では、一番多かったのは「新しい友達ができた」の86%で、大半の児童は友達との関係性を評価しています。以下、「明るい雰囲気となった」「学習が楽しくなった」と続きますが、「意見がまとまりにくくなった」と回答した児童が16%で、人数が増えたことによるマイナス面を感じている児童もいます。

続いて、「昼休みなど、休み時間の過ごし方は去年とくらべてどう変化しましたか」では、「遊びの仲間が増えた」が69%で最も多く、友達との関係性が評価されています。続いて、「よく外で遊ぶようになった」「遊びの種類が増えた」がほぼ半分となっています。

後の設問については、「遠足や運動会などの行事に変化がありましたか」「先生の人数が増えたことについてどう思いますか」「児童会の活動に変化がありましたか」「特設クラブにどんな期

待がありますか」「これからどんなことに努力してきたいと思えますか」などを質問しており、回答は記載のとおりとなっています。

このほかに、質問（９）として、自由記述の形式で児童から意見を聞いています。ここでも友達との関係が多く出されており、「統合して良かった」という意見が大半で、特に「前の学年までは人数が多いのは苦手だったけど、統合してからは好きになった」と回答した児童もありました。

以上、アンケートの結果を見ますと、全体的には多くの児童が、統合を良い変化として感じているという状況が浮かび上がってきています。

また、昨年度実施した、真砂地区・高洲地区の統合小、中学校のアンケート結果と比較しても、ほぼ同様の数値となっています。

これらのアンケート結果については、現在進めている花見川地区・千城台地区の地元代表協議会においても、学校適正配置の検討に係る参考資料として、今後、活用していきたいと考えています。

篠原委員　あまりいい結果が出ないような質問というのはなかったのでしょうか。また、その他にあるような少数意見についても教えてください。

企画課長　マイナスを感じているものとしては、「教室の様子は去年と比べてどう変化しましたか」という質問について、「意見がまとまりにくくなった」という回答がありました。

また、その他についての内容は現在手元にありませんので、調べたうえで後ほどお答えします。

和田委員　質問（９）の自由記述の中で、否定的な意見が全く出てなかったことは、非常に良かったと思います。

保護者からはアンケートをとっていないということでしたが、教職員の方々からはヒアリングを行ったということで、そこで何か目立った意見がなかったか、もしお手元にあれば教えてください。

また、このアンケートは７月に行われたということで、まだ１学期間だけが過ぎたところだと思いますが、今後、いろいろな行事や、１年間の生活を通してみると、また違った考え方も出てくるのではないかと思います。今後、それをフォローしていくとか、もう一度アンケートをとるといったことはお考えでしょうか。

企画課長 教職員に対する調査としては、6月4日に聞き取り調査、7月にアンケート調査を行いました。

出てきた意見の中では、「随分気持ちが楽になりました。単学級で、本当につらい思いをしてきておりましたが、学年のことを分担できたり、総合的な学習の時間などで相談し合えたりして、とても良いです。また、学級の児童についても、いろんな先生の手で見られるので良いです」や、「校務分掌の負担が減り、学級のことを時間が割けるようになった」、「おかげで、教材研究もできました」といった肯定的な意見のほか、「1学級の人数がふえ、個別指導が難しくなった」というマイナス面での意見等が出ています。

また、同じ学校で同様のアンケートを再度行うかということですが、同一のアンケートについては予定をしていませんが、現在、小学校3年生、小学校5年生、中学校2年生について、毎年度、全校で意識調査をしているので、関係するデータの解析を行っていきたいと考えています。

和田委員 統合したといっても、全校生徒数はまだ少ない方だと思いますが、それでも子どもたちにとっては、今までより随分数が多くなったということを感じたり、また、先生方もいろいろな感想を持っていることが分かりました。

今後の統廃合の参考にいただければと思います。ありがとうございました。

明石委員 今回のアンケート結果と花島小の結果、そしてその前に行った小学校、中学校の結果を一つの表にまとめてみると、やはり結果の数値が安定していて、子どもたちの意見はまともだというのが分かると思います。

また、このアンケートでは出てこないデータとして、不登校の数や、怪我をした子どもの数といったものがあると思います。

小規模校の方が怪我が少ないのか、子どもの人数が増えると遊ぶから怪我人が増えるのか、また、給食の残菜について、子どもが増えると元気に食べるのか等といったデータがあると、今後の住民説明会に役立つのではないかと思います。

今回、非常に嬉しかったのは、今までと変わらないという意見が9%か10%くらいだったことです。

ということは、ものすごく環境が変わっていることになります。こういう結果を出していくと、保護者も、子どもが変わってき

ていることについて納得できるのではないかと思います。

志村教育長 先日、高洲小学校に給食を食べに行きました。

8月に新校舎が完成して、仮校舎から新校舎にみんなで移動しました。体育館や教室、それからトイレもすごくきれいになったので、おそらく子どもたちは、家に帰って、保護者にこんなにきれいになったとか、こんなに使いやすくなったとか、話をしていると思います。

だから、さきほど明石委員がおっしゃったように時系列で比較するなら、新しくなった校舎に引っ越すということは、私たちにとってはすごく予算をかけて環境を整えたわけですから、そのときに子どもたちや先生方、それからそれを聞いている保護者がどう思ったのかということは、ぜひ調べておいていただきたいと思います。

それから、私ももっと早く言わなければならなかったのですが、確かにそういった面では、保護者の心配をいろいろな部分で解決してあげるには、保護者のアンケートも必要なものだと思いますので、ぜひ、お願いしたいと思います。

内山委員長 ぜひ、検討していただいたうえで、実行の方向で考えてください。よろしくお願いします。

報告事項(4) 平成25年度公立学校教員採用候補者選考（二次）受験状況について

内山委員長 教職員課長、報告をお願いします。

教職員課長 「平成25年度公立学校教員採用候補者選考（二次）受験状況について」、報告します。

去る8月17日、18日、19日に、中学校・中高共通・高等学校・特別支援学校・養護教諭の二次選考、また8月24日、25日、26日には小学校の二次選考を実施し、その結果を10月11日に、本人宛てに郵送しました。

また、同日に、県教育委員会ホームページにおいても、合格者の受験番号を掲載しました。

今年度の千葉県・千葉市公立学校教員採用候補者選考の状況については、小学校は2,345人が志願し、合格者は811人、倍率は2.89倍でした。

また、中学校は全教科合わせて4,269人が志願し、合格者は787人、倍率は5.42倍となっており、特に社会科、保健体育科での倍率が約10倍と高くなっています。

高等学校や特別支援学校、養護教諭につきましては、お手元の資料をご覧ください。

なお、今回の合格者の中から、本市では小・中・特別支援学校合わせて約200名の採用を予定しており、講師実績などを含め、優秀な人材を確保できるよう努力したいと考えています。

明 石 委 員 現在は県と共同で試験を行っていますが、今後、千葉市はどうするのでしょうか。政令指定都市になって、人事は市独自でやる方向だと思いますが、教員の採用も県から独立してやっていく計画はあるのでしょうか。

私の経験則で言うと、3倍を切ると優秀な人材が集まってきません。千葉大で申しますと、教育学部は3倍を少し超えるくらいですが、10倍を超える学部もあり、こちらは非常に優秀な方が集まります。

小学校の倍率が3倍を切りましたが、これは非常に由々しき事態だと思います。200名の採用を予定しているとのことですが、これに対して、千葉市はどう考えていくのか。倍率を上げる方法を今後、検討していきたいと思っています。

続いてお聞きしますが、面接官に第三者を取り入れていると聞いていますが、県はどの程度それを取り入れているのでしょうか。

個人的には企業の人事課長などは、経験豊富なのでいいのではないかと思います。

私の聞いている範囲では、面接官の半分は校長、教頭、指導主事などだそうです。彼らはどうしても使い勝手のいい方を選びがちではないかと思われるので、ちょっと人数が多いのではないかと感じます。

先生方が見るのもいいのですが、できれば具体的な経験をお持ちの方がいいと思うので、その辺について、県に申し上げてみてはいかがでしょうか。

財政の問題もあるので難しいと思いますが、本当のところは、早く千葉市が単独で採用試験を行うべきと考えます。

教職員課長 現在、千葉市と千葉県の共催で教員採用選考を行っていますが、競争倍率3倍という一つのラインについて、県も市も、大変厳しく考えています。

できるだけ多くの受験生が来るということをお大前提に、岩手、秋田、北海道などに選考会場を設け、多くの人たちが受験できる体制を整えているほか、大学等に行って宣伝をするなどの方法で

進めていますが、小学校の倍率は2.8倍程度となってしまうというのが現状です。

また、民間人等についてですが、中学校の試験については、面接官の中に各企業の人事担当者を取り入れています。また、県庁の人事担当職員に面接官をお願いするなど、教員または教員出身者だけではない方向で進めています。

内山委員長 先ほどの県と市の関係ですが、政令指定都市のうち、市独自でやっているところはあるのでしょうか。

明石委員 政令市は、独自でやっているところが多くあります。

ただ、千葉市は財政的な問題があるのではないかと思います。

志村教育長 それもありますが、県は市と一緒にやってほしいと考えているようです。

というのも、市と県で分かれてしまうと、千葉市の方が優秀な人材が集まるのではないかと思います。

私どもとしては、将来的には市独自で採用を行うということで協議を重ねていますが、財政的な問題だけではなく、県と市の関係の特殊性や、お互いがいろいろな面で協力し合いながら進めていくのが望ましいこともあるので、今後の課題にさせていただきたいと思います。

ただ、千葉市に優秀な人材を集めるということについては、十分努力してもらいたいと思っています。

内山委員長 いろいろ意見が出ましたが、ぜひ優秀な教員を採用できるよう、いろいろ工夫をしてもらいたいと思います。よろしくお願いします。

報告事項(5) 第55回千葉市小・中・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会 第1部について

内山委員長 指導課長、報告をお願いします。

指導課長 「第55回千葉市小・中・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会第1部について」、報告します。

9月15日から17日までの3日間、千葉市科学館を会場に開催されました。この総合展覧会科学部門は、主に夏休みを中心に児童生徒が取り組んだ自由研究や科学工夫の優秀な作品を一堂に陳列し、その成果を一般市民に公開するものです。

各学校から選ばれた作品総数は1,037点ですが、その中で225点が「推奨」に選ばれ、さらにその中の92点が、10月20日から21日に千葉県総合教育センターで行われた「千葉県

児童生徒・教職員科学作品展」に出品されました。

会期中は大変多くの参加者が訪れ、3日間で6,665人の観者がありました。

一昨年度から、「教育長賞」を設け、科学論文、科学工夫作品ともに、小中学校各1点ずつ計4点を選出しております。

なお、教育長賞を受賞した作品の講評については、資料のとおりです。

全体的な傾向としては、科学論文では植物や小動物など、児童生徒にとって身近なものをテーマにした作品が多く見られました。科学工夫作品についても、モーターや磁石を使った動きのある作品や、オリンピックにちなんだ夢のある作品、生活の中で使える作品など、日常生活との関連の深い作品が多く出品されていました。

以上が、第1部（科学部門）の報告ですが、来年1月には第2部（書写、図画工作・美術、家庭、技術・家庭、特別支援教育部門）を開催する予定となっていますので、その際には、また報告いたします。

和田委員 例えば、教育長賞を受賞した子どもたちが、どこかの場でプレゼンを行ったり、みんなの前で自分の言葉で発表するというような場を設けるといことは検討されていますか。または、既に実施していますか。

指導課長 科学館等を利用して、実際にみんなの前で発表するといったことは、なかなか難しいと思いますが、学校に帰ってからそのような取り組みをしているという例は聞いています。

また今後、これらの作品について市のホームページで閲覧できるようにするといった、ここで終わりではなく、今後も続いて見られるような取り組みは検討していきたいと考えています。

和田委員 多くの人の前で発表する機会を設けるのは難しいというお話でしたが、やはりこれからは、自分の研究してきたものを、書くだけではなく、自分の言葉で発表していく力を育てていくことがとても大事だと思いますので、できるだけそれが実現できるようなことも、検討していったほしいと思います。よろしくお願いします。

内山委員長 今後ともさまざまな工夫してもらえるといいのではないかと思います。

私も思ったのですが、県の展覧会へ行くと、担当者が優秀な作

品を解説してくれます。

作品は見ただけでは分からないものが多いのですが、1 時間半ほど説明を聞きましたら、さまざまな工夫などがよく分かりましたので、子どもたち自身にも、発表する場があればと思います。

篠原委員 先月も少しお話しさせていただきましたが、教育長賞の受賞作品を見て、できれば作品と一緒に、実際にそれが動いている映像や、子どもがプレゼンをしている様子などを流してもらえると、とても分かりやすいと思いますし、教育長賞を受賞したことが納得できるのではないかと思います。

志村教育長 3 日間の開催期間の中で、作品の審査を行い、県展出品作品や教育長賞が決まることになるので、それから準備するとなるとかなり難しいと思いますが、県展が終わってから何か機会を設けたり、科学フェスタの中で行っていくということは考えられると思います。

また、作品の審査は、あくまでも子どもの着想が中心であって、県展に行っていていい成績を上げるというようなことは考えていないので、むしろそういう部分では、もっと市独自で賞を用意するというようなことを、今後、検討していきたいと考えています。

そうなれば、市独自の審査基準の整備など、改善の余地はまだあると思います。

一方で、観覧スペースなどの物理的な問題は、大変厳しい状況にあります。会場が狭かったというご意見をたくさんいただきましたので、本当はもっと広い会場で開催したいのですが、作品の管理が難しいなどの問題もあって、なかなか難しいのが実情です。

ただ、科学館で開催するようになって、6, 000 人を超える方が見てくださるようになり、以前、教育会館でやっていた頃と比べると、本当にたくさんの方が見に来てくれるようになりました。

これは、これから先、市民の方にいろいろな意味で理解を進めていただくいい機会になるのではないかと思います。

また、今の意見を十分尊重して、反映させていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

内山委員長 こうして続けていけば、光り輝くものが出てくると思います。

明石委員 この展覧会は55回も続いていて、すごいと思います。

そこで、例えば過去20年ぐらいの推奨点数や県展出展数のデータを集めて、そのうち、市立千葉高校の理数科に入ったのが何%だとか、そういう統計もとってみたいですね。

学校教育の良さが進路にどう影響を与えるか、また、それを見る目があったのかどうか。

必ずしも直結するとは限りませんが、そんな励ましをもらうと、理数が好きになって市立千葉高校の理数科に入学したり、その先、理系の有名大学に進学するのかなど、ここ20年ぐらいの推奨件数をざっと見て、もしフォローアップができれば先生方も励みになると思います。

和田委員 千葉市のPRにもなりますよね。

報告事項(6) 平成24年度第1回長柄ジョイントキャンプについて

内山委員長 教育センター所長、報告をお願いします。

教育センター所長 「平成24年度第1回長柄ジョイントキャンプについて」、報告します。

教育センターと千葉市少年自然の家の共催により、平成24年度第1回長柄ジョイントキャンプが、10月3日から10月5日の2泊3日で実施されました。今年度が8年目の事業です。

このキャンプは、豊かな自然の中でさまざまな体験活動を通して、不登校児童生徒の自主性・社会性を育み、学校生活への復帰を手助けすることを目的としています。

このキャンプの「ジョイント」は、心をつなぐ、教室をつなぐ、学校をつなぐという願いを込めて、「ジョイントキャンプ」と命名しました。

今年度は、各ライトポートや教育センターグループカウンセリング活動に参加している児童生徒41名と、来所相談者2名の合計43名が参加しました。うち、小学生は4名です。

子どもたちは出会いのゲームに始まり、創作パンづくり、ネイチャーゲーム、キャンドルサービス、振り返りタイムなど、いろいろなプログラムに挑戦しました。

その中で、テーマである「自然の中で発見！自分、仲間、そしてチャレンジ！！」を意識し、この目標達成に向けて取り組んできました。

自己の振り返りにもあるように、今まで気づかなかった自分を発見し、また、新しい仲間と協力していくことの楽しさや大切さを、体験を通して学ぶことができ、大きな成果を上げることができました。

今回、教育委員長、教育委員、教育長、教育次長、学校教育部長を始め、各学校の校長先生や担任の先生方の視察、参観を多数

受けました。子どもたちが担任の先生と楽しく語らう姿も見られ、多くの方々に見ていただくことで、子どもたちも励みになりました。

次回、第2回ジョイントキャンプは、平成25年2月6日から8日の2泊3日で実施します。

明石委員 不登校の子どもたちは、教師や指導員というのは苦手なのではないかと思いますが、学生のお兄さんやお姉さんが相手だと、大人しいお子さんも話しをするようになります。そこで伺いますが、引率者21名のうち、学生ボランティアは何名いたのでしょうか。

教育センター所長 学生ボランティアは4名です。

明石委員 指導員というのは教育センターの方ですか。

教育センター所長 はい、教育センターの非常勤です。

明石委員 その方は、スクールカウンセラーや学校心理士の資格を持っている方ですか。

教育センター所長 そういう方もいますし、将来、教員を志望している方もいます。

明石委員 分かりました。あと、このキャンプは年に何回開催していますか。

教育センター所長 2回開催しています。

明石委員 できたら3回ぐらい開催するといいと思います。

不登校の子どもたちは、キャンプは楽しいのですが、家に帰ると元に戻ってしまうので、キャンプの楽しさを普段の生活へ持ってこられるような取り組みがあれば、元気が出てくるのではないかと思います。

年に3回ぐらい開催して、3回目に、例えば、さよならパーティーのような催しをしたりすると、パワーアップしてくるのではないのでしょうか。

県も同様の事業をやっているので、そちらの事例も参考にしながら、ぜひ続けていっていただきたいと思います。

内山委員長 ぜひ、検討してみてください。

篠原委員 視察に行かせていただきましたが、まずは、創作パンがとても美味しかったです。

環境にもとても恵まれ、子どもたちが生き生きとしているので、本当にこの子たちが学校に行けない子どもたちなのか、と思うくらい明るく元気に過ごしていたのが印象的でした。

また、ネイチャーゲームに参加させていただきましたが、芝生の上に寝転がって周りの音に耳を澄ましてみるというような時間を過ごすことは、なかなかできないことだと思いましたし、子どもたちがそういう時間を過ごしているのを見て、こういうのは本当に大切な経験だと思いました。

予算の問題もありますが、明石先生がおっしゃったように、やはりこういうキャンプは、年に3回、4回とたくさんあった方がいいと思います。

また、キャンドルサービスのときに、参加した子どもたちが、自分がどうだったかというような話をしながら成長していったということを聞いているので、ぜひその部分について教えていただけたらと思います。

教育センター所長 お天気の都合で、キャンプファイヤーではなくてキャンドルサービスになってしまいましたが、一人ひとりにろうそく立てを作り、それぞれがその火を持って、このキャンプに参加して自分が変わったことについて発表しました。

キャンプに来てからこんなに変わっていったという様子を説明してくれた子もいましたし、友達ができたとか、それから指導員に対しての感謝の気持ちや、僕が今いられるのは親のおかげですといったお話など、途中で私も涙ぐんでしまうぐらい感動的な内容で、社会性のあるお話を発表してくれた子たちばかりでした。

報告事項(7) 平成24年度長柄ハッピーキャンプについて

内山委員長 養護教育センター所長、報告をお願いします。

養護教育センター所長 「平成24年度長柄ハッピーキャンプについて」、報告します。

長柄ハッピーキャンプは、通常の学級に在籍するLD、ADHD等発達障害等のある小学生のための宿泊体験活動です。

平成17年度から千葉市少年自然の家で実施し、今年度で8回目となりました。

目的は、発達障害等のある児童を対象に、集団生活を通して社会性を向上させ、通常の学級での適応力を高めることにあります。

今年度は10月5日(金)から10月7日(日)の2泊3日で実施いたしました。

参加児童は、養護教育センターで行っている発達障害等の子どものための3、4年グループ活動参加者から7名、LD等通級指導教室通級児童の3、4年生の希望者28名の合計35名です。

主な活動内容は、ウォークラリー、焼きそばづくり、クライミングウォール、キャンドルサービスなどです。

普通のキャンプと似たプログラムではありますが、その中で起こるさまざまなトラブルや、個々の児童が抱える困難を、指導者と一緒に考えていくことが中心的な狙いとなります。

キャンプ期間中、教育長、学校教育部長を初め、LD等通級指導教室設置校の校長、参加児童在籍校校長、担任等42名の先生方の視察・参観をいただきました。

成果は、一つひとつの活動に目当てを示し、役割を明確にし、振り返りを行うことにより、子どもたち個々の活動意欲が高まるとともに、集団での決まりを守ったり、自分の役割を最後まで果たそうとしたりする姿が見られるようになりました。さらに、班で話し合い、協力して役割を果たす場面や、互いにありがとう、大丈夫だよ、などと声をかけ合う機会を設定し、それを積み重ねることにより、友達と認め合い、かかわることの楽しさや満足感を味わうことができました。

児童の感想の中には、「今までは名字で呼び合っていたけど、〇〇ちゃんと、呼び名がいつの間に変わっていました」といったものや、キャンプから1週間が経過しても、「また同じメンバーで泊まりたい」と何度も話す児童が出てくるなど、友達とのかかわりが深まったという実感を持つことができたことが窺えます。

通級指導教室の担当者からも、「学校では自分から話しかけられない児童が、キャンプではリーダーに立候補したり、友達に自分から話しかけたりする姿が見られた」などと児童の変容が報告されました。

また、指導者側の成果として、3日間生活をともにすることで、学校や通級指導教室の中だけでは分からなかった実態、例えばパニックを起こす要因やトラブルへの対応方法などが把握でき、今後の指導に役立つ新たな視点を持つことができました。

今後もキャンプでの成果を生かしつつ、グループ活動や通級指導教室での指導の充実を図ってまいります。

なお、引率職員等は28名ですが、そのうち学生のボランティアは6名です。

明石委員 長柄ジョイントキャンプ、ハッピーキャンプといった、やわらかいネーミングは、子どもが参加しやすくとてもいいと思います。

そこで、初任者研修などで、今回の成果や、不登校、軽度発達障害への対応などの体験談を伝えてもらえると、若い先生のためになると思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

和田委員 ジョイントキャンプ、ハッピーキャンプの参加者ですが、全体の何割ぐらいが参加しているのでしょうか。

養護教育センター所長 ハッピーキャンプの参加者は、LD等通級指導教室に通っている3、4年生ほとんどの児童と、養護教育センターのグループ活動参加児童の約半数です。

教育センター所長 ジョイントキャンプの参加者ですが、現在、ライトポート全体で93名、グループ活動が42名で合計約130名おりますが、そのうちの43名ですから、約3分の1ということになります。

和田委員 なかなか参加は難しい面もあるのではないかと感じて伺ったのですが、分かりました。ありがとうございます。

内山委員長 関連してお聞きしますが、これまで参加した子どもたちが、再び参加するような傾向はあるのでしょうか。

教育センター所長 ジョイントキャンプでは、最高5回目というお子さんがいます。その子は、本当にジョイントキャンプ慣れしていて、リーダーとして、みんなを仕切ったりしています。

養護教育センター所長 ハッピーキャンプの方も、前回、3年生で参加した子は、ほとんど4年生で再度希望しているような状況です。

志村教育長 5年生から通常学級になるので、ここで経験したことが、5、6年生の移動教室、農山村留学へとつながっていきます。

そういった面では、このお子さんたちが、既に3、4年生のころから少年自然の家の生活を経験しているということは、いろいろな面でプラスにもなりますし、入っていきやすいのではないかと思います。

報告事項(8) 「千葉市科学フェスタ2012」メインイベント開催及び千葉市科学館利用者200万人達成について

内山委員長 生涯学習振興課科学教育推進担当課長、報告をお願いします。

科学教育推進担当課長 「「千葉市科学フェスタ2012」メインイベント開催及び千葉市科学館利用者200万人達成について」、報告します。

「千葉市科学フェスタ2012」メインイベントは、小中学校の秋休みである10月6日に市長の開幕宣言で始まり、7日に教育長の閉幕宣言で幕を閉じました。

主な企画として前回紹介しました、来場者の投票により人気のあった出展団体を表彰する「ちばSC（サイエンスコミュニケー

ション) グランプリ」では、ウェザーニュースの「ソラヨミ道場」が第1位の表彰を受けました。これについては、非常に人気が高かったとの報告を受けています。

また、教育関係職員を始め、さまざまな科学団体等のご協力で、2日とも大盛況の中、フェスタを開催することができました。

メインイベント期間中、科学館利用者数の1日平均を昨年と比べますと、8割増しの利用者になりました。特に7日(日)については、科学館開館以来最高の利用者数を記録したとのことでした。

次年度の開催に向けて、さらに幅広い層の参加、参加団体のネットワーク化、情報発信の強化など、今回の課題を明らかにし、よりよく改善した上で、市民が日常の中でも科学を感じることができるようにしていきたいと考えています。

続いて、千葉市科学館の累計利用者200万人達成の件ですが、200万人目の利用者は、千葉市中央区の在住のご家族の皆さんでした。科学フェスタメインイベント開幕直前での達成だったことから、開幕式の中で記念式典を行いました。

千葉市科学館は、日常の視点で科学をとらえ、子どもから大人まで楽しめる参加体験型の科学館として、平成19年10月20日に開館しましたが、翌年の10月26日に利用者が50万人、平成22年4月24日には100万人を記録しました。年間の利用者数は、毎年40万人で推移しているところです。

今後も千葉市科学館がキーステーションとなり、日常生活の中で、科学・技術が身近な文化として浸透できるように、また、科学館利用者が一層増加するような取り組みをしていきたいと考えています。

和田委員 科学フェスタに関してですが、市内の小中学生、子どもたちにはどのような周知方法をとられたのでしょうか。

科学教育推進担当課長 小中学生については、9月の第1週にフェスタのチラシを全員に配付したほか、事前にポスターを学校に配付しました。

また、各校長先生に、ぜひフェスタに参加するように呼びかけ等をお願いしました。

和田委員 学校を通じての通知ということで、子どもたちには行き渡っていたと思いますが、私が初日に伺ったところ、保護者に引率されている小学生が、とても多かったように思いました。

それを考えると、やはり、保護者が科学に興味があるというような家庭の子どもが来るようになっているのではないかと感じ

ます。

というのも、先日、全中学校区の代表が出席した青少年相談員の理事会で聞いてみたところ、誰も科学フェスタの存在を知りませんでした。

こども未来局にもチラシをお持ちになったということでしたが、チラシができてからでは間に合わないので、その前に日程や大まかな概要をお知らせいただき、ぜひ青少年健全育成団体でも、子どもたちを引率して行くといったようなことをお考えいただくと、家庭の中で興味がなくても、子どもたちが新たに科学に興味を持つきっかけになるのではないかと思います。

今後、こども未来局との連携をとっていただければと思います。よろしくお願いします。

生涯学習部長 日程等のお知らせについては、6月頃には、市各局をはじめ、報道等でも発表しておりますが、なかなか伝わらないという部分があるのかもしれないので、今後、その辺りも考えていきたいと思っています。

また、大人の方の参加が少ないのではないかとという点も、我々は気にしているところなので、その辺りのパブリシティについても、いろいろと課題が見えてきたところなので、来年に向けて頑張っていきたいと思っています。

和田委員 大人もすごく楽しめるイベントですね。

生涯学習部長 あともう1点ですが、ちょっとイベントになり過ぎているところもあるので、今後、これをどう科学への興味につなげていくかというところも、大きな課題だと思っています。

この辺りについても、いろいろご意見をいただきながら頑張っていきたいと思っています。

和田委員 各ブースごとに、専門的なことをわかりやすく説明してもらえるので、子どもはもちろん、大人も楽しめるということと、意外とブースごとに空きがあり、まだまだ受け入れられるキャパシティはあると思いますので、周知方法も含めて、よろしくお願いします。

明石委員 まず、この年間平均40万人というのはすごいと思います。相当頑張ってくれて、やはり嬉しいと思いました。

そこで、メインイベントの参加者が、去年は3日間で9,000人なのに、今年は2日間で1万1,000人を超えたことについて、この努力の背景をもっと自慢してほしいと思いま

す。入場者が増えたことについての分析は、どのようになっているのか伺います。

また、ある程度、初期段階を達成したということで、次は量から質に変えるといった工夫も必要ではないかと思います。

生涯学習部長 まだ完全に分析が終わったわけではないので何とも言えないところもありますが、基本的に3日間開催というのが、長くだったらしてしまうところがあったので、今年は逆に集中して開催できたのではないかと思います。

また、今年は公募で参加を募った団体も多く、そのブースを結構楽しんでもらえたのではないかとともに思います。

それからやはり、今年は2年目ということで、昨年よりも定着してきたのではないかと考えています。

篠原委員 私も、この2日間で人数が増えたのはなぜなのかと疑問に思っていました。

また、先ほどの周知についてですが、科学館と聞くと、どうしても子どものイベントではないかと思われてしまうので、もう少し、大人も楽しめるというような点をもうアピールできればいいのではないかと思います。

明石委員 それも対応しているんですね。

生涯学習部長 対応はしているのですが、この辺りは、本当にアンケート等でも分からないところがあり、何かアレルギー的なものがあるのではないかという感じもしています。

今後、その辺りをもう少し分析しながらアピールしていきたいと思います。

内山委員長 これからまた、いろいろ検討していただいて、逆にもっと広く続けていければと思います。よろしくお願いします。

議案第38号 平成24年度末及び平成25年度公立学校職員人事異動方針について

内山委員長 教職員課長、説明をお願いします。

教職員課長 「平成24年度末及び平成25年度公立学校職員人事異動方針について」、説明します。

本件は、千葉市教育委員会組織規則第8条第4号の規定により議決を求めるものです。

今年度の異動方針については、去年の人事異動方針と大きな変更点はありませんが、一部、文言の修正等見直しを図りました。

まず、第1 一般方針ですが、適材適所の人事と職員構成の適

正化、それから全市的な視野に立った計画的な人事、適任者の管理職への登用配置、障害者への配慮、県内学校との交流の大きく5つの方針を掲げています。その中で、2の表現を若干手直ししました。

次に、第2 実施要項ですが、一般方針を詳細に示したもので、適正配置、広域人事、管理職等への登用、管理職からの降任、新規採用者の配置、再任用制度について、分けて示しています。

その中で、1の適正配置については、主幹教諭の配置を平成22年度より実施していることから、それに伴い、新たに一文を追加しました。

また、3の管理職等への登用についてですが、昨年度、女性教員の管理職への登用を積極的に推進するという部分については、検討を求められていました。

県費負担職員である教員の人事異動方針については、県教育委員会と協議を行い、その方針を決定していることから、県とも協議をしましたが、管理職の適任者の登用を基本に、現在、教職員の全体に女性が占める割合が多い中、積極的に、女性も含め、適任者を登用する意味から、この1文は残すことになりました。

また、6の再任用制度についての「定年退職者等の再任用」の表現ですが、対象者の身分を明らかにするため「県費負担教職員の定年退職者等の再任用」に改めました。

人事異動は、学校組織の活性化を図るとともに、各学校における教育活動の一層の充実・発展を図る基盤となる条件整備と考えています。学校や職員の実情を把握し、適正な配置に努めていきたいと考えています。

今後の予定ですが、11月30日（金）に、校長を対象とした異動方針説明会を開催した後、異動事務を進めていく予定です。

和田委員 女性の管理職への登用を積極的に進めていくとの文言、お考えいただきましてありがとうございます。

昨年申し上げましたが、この文言について、もう少し内容を丁寧に記載していただくことはできないかと考えています。

具体的に説明するのは難しいのですが、例えば、管理職への登用が進むような環境を整えていくといったような内容を、今後、この文言に盛り込んでいただけたら、より分かりやすく、皆さんにも納得いくような文言になるのではないかと思います。

繰り返しになりますが、よろしくお願いします。

明 石 委 員 人事方針ですが、例えばこれを新聞記者が記事にする場合、魅力がないというか、通り一遍だという感じがします。

2 実施要項の1 適正配置についての(3) 特別支援教育の振興を図るため、また、(4) 市立稲毛高等学校附属中学校の教育の振興を図るため、それぞれ意欲あふれた適任者の配置に努めるといった部分は記事になり得ると思いますが、例えば、女性校長を登用するということについて、現在、女性登用率が何割で、この先、何割までもっていくといった記載がありません。

また、私が気になったのは、現在、千葉市も含めて千葉県では若い教諭が増えている中で、若い教諭の指導が非常に難しくなっているという現状がありますが、これに対する対応が書かれておりません。主幹教諭の配置ということは多少は分かりますが、若手教諭を育成するような仕組みづくりや人事配置について、千葉市はどう考えているのかといった部分が見えてきません。

要するに、方針は数字がないと方針にならないと思いますが、いかがでしょうか。

教職員課長 今回のこの方針を教育委員会会議で議決していただいた上で、このほかに、具体的な内容については細目という形で、各校長に示しています。

明 石 委 員 細目は別にあるわけですね。

教職員課長 はい。人事異動方針は委員会会議で決定していただき、細目については、方針に則って事務局で決定をしていくという形をとっています。

明 石 委 員 そうすると、その細目は次回の教育委員会会議に上がってくるわけですか。

教職員課長 細目については、教育委員会会議の議決では行っておりません。

明 石 委 員 議決はしなくても、報告ぐらいいはしていただけるのですか。

内山委員長 細目の報告について要望があったということで、次回、よろしくお願いします。

教職員課長 分かりました。

明 石 委 員 それからもう1点です。

市立稲毛高校附属中学校の教育の振興を図るため、意欲あふれた適任者の配置に努めるという内容は、見方によっては、これまでの6年間は意欲にあふれた人が少ないといった感じにも受けとめられかねないと思います。これまでの6年間に、教員がどの

程度定着したか、また、仕事のモラルは上がったのか、下がったのか。こういった記載がないと、誤解を生む原因になるのではないのでしょうか。

内山委員長 できるだけ抽象的な表現になっている感じはしますが、今、明石委員が言われたような実際の運用面について、主だったものでも構わないので、説明していただけますか。

教職員課長 稲毛高等学校附属中学校については、千葉市立で唯一の中高一貫校として、一つの目玉として大切にしていこうということで、特に取り上げているところです。

意欲あふれた適任者の配置については、もちろん、これまでも取り組んできましたし、今後も引き続き取り組んでいくという意味で、このまま残しているところです。

また、卒業生、在校生を含め、子どもたちはさまざまな面で活躍、成長をしていると考えています。

明石委員 これまでの6年間で、校長は何人替わったのでしょうか。

教職員課長 附属中学校の校長は3人です。

明石委員 6年で3人は短いですね。それでは困るので、県に強く言ってほしいと思います。

せっかく中高一貫でいい中学校を作ったのに、2年で替わってしまうのはどうかと思います。

内山委員長 明石委員からのご指摘等も含めて、もう少し広く検討していただき、我々にも主だった項目をお話いただければと思います。

その中で、またご意見をいただきながら、いい方向へ持っていければと思います。よろしくお願いします。

7 その他

(1) 千葉市立養護学校の視察について、篠原委員、内山委員長、和田委員、明石委員より報告があった。

篠原委員 養護学校を視察させていただきました。

子どもたちが活動しているところや、帰るときの様子を見ることができました。先生方からもいろいろお話を聞かせてもらいましたが、保健室にベッドが1つしかありませんでした。

養護学校という特性上、ベッドが1つでは足りないのではないかと思いますので、できればもう少し増やしてほしいということを要望させていただきます。よろしくお願いします。

内山委員長 私も同様のことを感じました。また、部屋の広さ等も含めて、いろいろと問題があるのではないかと思いますので、ご検討をよ

ろしくお願いします。

和田委員 養護学校の構造上、暑さ、寒さといった気候の影響を受けやすく、また、気圧の変化を受けるお子さんも多いということで、台風が来たりとか、昨日のように風が強かったりすると、例えば発作に近いようなことが続けて起きてしまうことがあると聞きました。

これは長期的なことだと思いますが、やはり冷暖房が完備できれば、一番いいのではないかと思いますので、それについては、ずっと念頭に置いていただければと思います。

もう1点、天井にある大きな窓から差し込む日差しが非常に強く、かなり暑くなるようですが、そこに車に張るフィルムのようなものを張ることで、日差しや気温を和らげることができたというお話を伺いました。

それと同時に、大きな震災があったような場合に、ガラスが割れた際の飛散防止になるようなフィルムがあれば、子どもたちへの影響が少なくなるのではないかという要望も伺いました。

第二養護学校ではそれが完備されているとのことなので、ぜひ、養護学校にも、まずはこれを第一に考えていただきたいと思います。

明石委員 保護者は、養護学校の高等部を卒業した後の子どもたちの居場所が一番心配なので、学校教育だけではなく、その後について、教育委員会とこども未来局でどのように対応していくのかということをご検討願いたいと思います。

また、かつて青年学級というのがありましたが、そこで、キャッチセールスに遭わない方法や、通信販売の断り方など、自分の身や生活を守る方法についての情報提供や学習チャンスといったものを、今後、生涯学習の視点からどこまで用意していけるのかということ、今後、検討していただければと思います。

(2)図書館への図書の寄贈について、和田委員より質問があった。

和田委員 図書館の本の寄贈に関して伺います。

新刊本に対するリクエストの数が多いということは皆様ご承知だと思いますが、例を挙げますと、私がリクエストのナンバー1になっている書籍を5月13日に申し込んだのですが、このとき既に1,100件ぐらいのリクエストがありました。

それから5カ月経ちましたが、現在は552番目に繰り上がっており、あと半年ぐらいかかるということが想定されます。

いろいろな形で寄贈を呼びかけていると思いますが、どうしても新刊本というのは、なかなか寄贈が集まらないのではないかと思います。

そこで、新刊本に対する寄贈の依頼を、どのような形で行っているのか、お伺いできればと思います。

中央図書館長 リクエスト本に関しまして、大変ご迷惑をおかけして申し訳ございません。

確かに人気のある本は、全図書館で40～50冊購入しても、このような状況が起こるというのが実情です。

また、寄贈図書については、各図書館で必要としている新刊図書のタイトル名を挙げて、寄贈のお願いを掲示するとともに、ホームページにおいても、同様のお願いをしているところです。

これらに関しては、図書館利用者へのPRという形で発信しているため、図書館を利用していない方々への寄贈依頼というのは、まだ発信できていないのが現状です。

図書館を利用していない方々へのPR・周知については、今後、考えていきたいと思っています。

和田委員 ありがとうございます。

本を借りる層と本を買う層は、リンクしている場合もありますが、絶対に借りないで買う人も、中にはいらっしゃると思うので、その方たちの目に触れる宣伝方法を、ぜひお考えいただきたいと思っています。

学校を使って、保護者会を通じて親御さんをお願いするなど、いろいろお考えいただければと思います。

(3) 研究指定校研究報告会の視察について、内山委員長より報告があった。

内山委員長 昨日、こてはし台小学校で開催された研究指定校研究会報告会に参加しました。

1年生と6年生のどちらの授業に参加するか迷いましたが、1年生に授業に参加し、非常によかったです。素晴らしい授業でした。

授業終了後も学校に残り、協議会として先生方とお話しをしましたが、研究発表の内容などについて議論をすることができ、成果が上がったのではないかと思います。

担当の先生も、恐らく45分の授業ために相当の時間とエネルギーを使ったのではないかと思います。その甲斐あって、立派な授業ができたのではないかと感じましたし、子どもたちも、本

当に明るく、元気にやっていたので安心しました。

ぜひ、皆さんにも参加していただきたいと思います。

(4)平成25年度千葉市立小・中・特別支援学校管理職選考について、教職員課長より報告があった。

教職員課長 平成25年度千葉市立小・中・特別支援学校管理職選考について、報告します。

11月10日（土）、11日（日）の2日間、千葉市立小・中・特別支援学校管理職選考試験を実施します。

今年度の校長候補者の志願者数は84名、教頭候補者の志願者数は82名となっています。

選考は、個別面接、集団面接を行い、教員出身の教育委員会職員も同様に、管理職選考を受験することになっています。

(5)第11回定例会は、平成24年11月21日（水）午後2時より開催することと決定した。また、11月上旬に臨時会を開催することが決定した。

8 閉会

内山委員長より閉会を宣言